

情勢への発言 1 再整備 3 祈る 3 祈るばかり 4 精神状態 5 交渉 6 国民と官僚 11 停滞 13

16年12月15日号より

(や=山田 学) [☆☆☆情勢への発言☆☆☆  
☆トランプ次期大統領などに象徴されますが、  
〈国家間の本来的な闘争性〉が、〈諸国家元首個人の個性〉に、顕在化しつつある時代、  
なのでせうか。

たとへば、国連といふ組織の、その意義と限界について、熟慮すべき時代に入りましたでせう。

国家といふ組織は、簡単に止揚する(内容は保存し形式は否定する) ことができるものではありませんが、しかしながら、国家といふ組織を前提としてある限り、人間社会は平和となりません。

JOMON あかでみいは、かねてより、〈脱国家〉の立場からこそ、〈日本列島から諸民族調和へ!〉といふ内容を主張してまゐりました。

\*  
さて、かのプーチン大統領は、国家といふ組織を前提とした、国家の指導者としては、優秀な存在であると、認めざるをえません。(これは、人権思想の観点から言ふのでありませんから、誤解なきやう。そして、くりかへし

ますが、JOMON あかでみいは、〈脱国家〉の立場です。)

そして、露国はわが日本国と、どう関係してくるか。

露国は、日本国がエネルギーにおいて露国に依存する体制へ、しむけてくるでせう。

たとへば、「エネルギー産業に特化した投資ファンドマネージャー」の立場からではあるが、「プーチン大統領の意思と行動」について説いた、マリン・カツサ『コールド・ウォードル覇権を崩壊させるプーチンの資源戦争』(渡辺惣樹訳・草思社 2015年) を読むと、さう、考へられます。

かつての米ソ冷戦より、さらに冷たい戦争が、<sup>コールド・ウォー</sup>エネルギー分野において、露米間に展開しつつあり、日露関係も、プーチン大統領は、その大局から規定してくるであらう、といふことです。わが国としては、どう対応してゆくべきか。

そして、北方領土問題において留意すべきは、北方領土周辺において、米露が軍事衝突しないやうにする工夫・努力でせうか。

\*  
一方、朴槿恵大統領失脚により、金正恩委員長がどう出てくるか...

目前の動きよりも、この南北朝鮮関係の深層に関して、思ふに...、東アジアには、儒教(とくに朱子学) と市場社会・資本主義・民主主義の矛盾の解決、といふ課題があり、とくに朝鮮半島において、その矛盾が先鋭化して

ないでせうか。

韓国には、急ぎすぎた資本主義の矛盾があり、一方、北朝鮮のはうが、儒教伝統をより強く遺してある、といふ面があります。(JOMON あかでみいは、韓国といふ国家も、北朝鮮といふ国家も、支持してはゐませんから、誤解なきやう。)

そもそも、東洋文明と西洋文明の矛盾の解決、諸民族調和へ、といふ観点からも、ゆつくり取組んでゆくべき、思想ないし実践の課題が、東アジアとくに朝鮮半島にあると、思はれます。]

17.2.15より

(や) [☆☆☆再整備☆☆☆日米関係は、貿易・投資分野などを幅ひろく協議する、麻生副総理とペンス副大統領らによる枠組が、新設されることとなりました。たとへば、米国内のインフラを再整備し、雇用を創出することを、日本国が援助する。後進国に対してではなく、国内の半分が疲弊した先進国たる米国に対し、新しい意味のODA(政府開発援助)が展開される、といふことでもありませうか。日本発の資金が他国の平和な社会再生に活用されることは、悪いことではないと考へます。]

17.4.17より

(や) [☆☆☆祈る☆☆☆各国による軍事準備ないし行使を最少限にしつつ、米国と北朝

鮮国の対話にたどりつくこと。

それを祈るばかりです。

根本としては、人間社会のひとりひとりがおたがひの健康平和生活を生産しあふ悦び。それを共有していく。そのための思考・情念・情感・生体を追求しあつていく。それを祈るばかりです。]

17.5.15より

(や) [☆☆☆祈るばかり☆☆☆ 文在寅韓国新大統領が北朝鮮国 (14 日朝、さらに高機能ミサイル発射) にどう対応し、米国にどう対応するか。北朝鮮国は、そして米国は、文新大統領の体制にどう対応するか。結果、米国と北朝鮮国が、どういふ形式と内容にて、対話にたどりつくか。さういふ情勢に、

わが日本国はどう対応すべきか。露国や、中国は、どう対応してくるか。いづれにせよ、これら 6 か国の相互対応が、健康平和方向に進展することを、祈るばかりです。]

17.8.15より

(や) [☆☆☆精神状態☆☆☆ 日本国の役割はむしろ、米国と北朝鮮国を対話へいざなふ、外交環境創りではないのか。

いづれにせよ、平和への根本は、冷静沈着な精神状態にあります。

日本列島をはさみ、米国と北朝鮮国の激情のやりとりは、ちと、日本の茶道・華道・俳句道などの環境として、ふさはしくあらぬ。そろそろ、日本のまともな武道精神から成る、情報能力・外交・通商貿易・金融政策と最少限の軍事・治安警察を立ち上げていきませうかの。

正 恩をめぐみた母は平静か]

17.9.15より

(や) [☆☆☆交渉☆☆☆ふと、昔の流行歌を想ひ出しました。]

(昔の流行歌の末尾) [

襟裳の春は 何もない春です

寒い友だちが 訪ねてきたよ

遠慮はいらないから 暖まつてゆきなよ]

(や) [この 8 月 29 日朝 6 時すぎ、われらが襟裳岬の上の、高い空を、「火星 12 型」といふ北朝鮮国ミサイルが、横切りました。襟裳の夏は、意表をつくミサイル横切りのあつた、夏です。こころの寒い北朝鮮国も、それなりに、暖まりたいところが、あるいは、あつたのか??

ふと、このやうな想念が、わりとまじめにわたしのこころに浮上したのは、後述する、北朝鮮国に関する専門家の指摘も、影響してゐるかもしれません。

さて、その前に、日本人は忘れがちですが、1950 年 6 月からの朝鮮戦争は、1953 年 7 月に休戦したまま、本質的には、継続中です。金家三代といふ北朝鮮国元首の要求は、これを平和状態へ移行させることと、自国を核武装国と成しても、体制を維持することです。

問題は、米国が信ずる、資本制人間社会の永遠性は、やはり、誤りであらう、といふこと。だからと言つて、資本制人間社会の問題をどう解決していくのか、実は、その理論が、社会的には未確立なこと。といふより、そもそも、国家といふものを、前提としてゐては、

資本制人間社会の問題を解決していくことはできない、といふことです。

未熟な人間社会の、かういふ過渡期にあり、米国と北朝鮮国といふ、国家闘争を、なるべく平和に、どう治めていくか。

将来は、米国と北朝鮮国のあひだにおいて、核拡散防止ないし核軍縮の対話こそが実現することを、祈ります。

そして、わが日本国と韓国や北朝鮮国との関係については、専門家による著、菅沼光弘『金正恩の黒幕はアメリカだった』(但馬オサム構成・ビジネス社2017年7月)から、引用しておきます。まづ230～231ページです。]

(菅沼発言) [終戦までは日本は韓国人と非常にうまくやっていました。それでは戦後なぜ韓国の反日が高まったかといえば、原因は李承晩大統領です。李承晩の反日教育です。

私が七〇年代に韓国に行き始めたときは、ほとんどの韓国人が日本語を話していたから、会話で不自由することはなかった。そのころ韓国人は「慰安婦」なんて誰も問題にしてなかった。むしろ日本と一緒にアメリカと戦った戦友だと、日本に対して悪い感情をもつ人は一人もいませんでした。ところが、今日になってなぜ反日、反日ということになっているかという、アメリカの指示もあって李承晩大統領が、反日教育を徹底的に行ったからです。その教育の成果が今噴出して、文在寅の周辺にいるよう

な反日の「三八六世代」が誕生した。典型は文在寅大統領の秘書室長ですが、じつは朴槿恵前大統領もそうです。この世代はもうどうしようもない反日です。したがって、韓国の反日というのは、アメリカによりつくられた「反日」なのです。教育というのはかくも恐ろしいものなのです。]

(や) [次に234～236ページです。]

(但馬質問) [最後に。日本が北朝鮮と対話を開始するとして、どのようなタイミングが考えられますか。]

(菅沼発言) [難しい質問です。ただ、対話をしているのは、北朝鮮だということ認識しておくべきです。その上で、いかにこちらが、有利な立場で相手をテーブルにつけさせるか…… まあ、それが普通の外交なのですが、そこがちょっと心もとない。

北朝鮮はさりげなくサインを出してはいるのです。昨年九月、アントニオ猪木議員や武貞秀士氏(拓殖大学特任教授)が訪朝したさい、会談の相手として登場したのは李洙墉氏です。李氏は元外相であり、二十年ぶりに復活した外交委員の委員長に選ばれた人物です。これまで日本の政治家が平壤へ行って宋日昊氏が出てきてお茶を濁す程度だったのに、李氏が出てきた。これには意表をつかれましたね。

(中略)

… 李洙墉氏、この人物が出てきたことは大

きい。北朝鮮が、日本と対話する用意はありますよ、というサインを発したということです。しかし、日本の政治家やマスコミで、そのことに気がついた者がどれだけいるだろうか。

猪木氏は帰国後、菅官房長官に報告に行こうとしたら、菅官房長官は、政府の方針に反する、スタンド・プレイだといって、会おうともしなかった。自分から対話のドアを閉めてどうするんですか。表だって会うのはまずくても、報告ぐらい聞く方法はいくらでもあるでしょう。]

(や) [確かな情報にもとづく、なるべく平和な、事態の進展を、祈るばかりです。

ふと、わたしが、北朝鮮国ミサイルの横切りといふ「恫喝」の裏にも、あるいは、「求愛」の面があるのでないか、と想つたのは、以上の指摘とともに、元首相の13年前の指摘も、影響してあるかもしれません。すなはち、中曾根康弘『自省録 歴史法廷の被告として』(新潮社2004年)にある指摘です。]

(『自省録』227ページ) [... 北朝鮮の外交戦略は、求愛を恫喝でやろうとしているところがあるのです。恫喝的だが、あくまで求愛なのです。そこを見誤ってはいけません。]

(や) [「朝鮮民主主義人民共和国」なる国名にて、それなりの理想はあつたらうが、健康平和な現実認識の理論が、社会的に未確立のまま、さしあたり、表向きの「恫喝」をして

ある、といふことでせうか。

そして北朝鮮国は、この9月3日(現地時間)正午に、水爆実験を行った。この数年間の、北朝鮮国による、核とミサイルの技術の、発達の早さをみると、「国連決議」に“とらわれず”、北朝鮮国に協力する、水面下などのさまざまな勢力のあることが、十分に、予想されます。「国連決議」の意義と限界を踏へつつ、米国と北朝鮮国の直接交渉を、どういふ内容にて、実現させていくか。それをこそまづ、米国・日本国・韓国・露国・中国の5か国にて、協議すべし。さう想ひます。ともかく、離れあつての、過激な言動の応酬は、当事者自身たちも予想しない、危険な展開への可能性を、排除できません。米国建国の、北朝鮮国建国の、おたがひに異質ながらも、それぞれなりの理性に立ち帰り、直接交渉を、実現させるべし。

9月7日にロシア極東ウラジオストクにて安倍首相とプーチン大統領が会談しました。それを報ずる新聞記事のなかに、北朝鮮国と米国の緊張関係について、かうあります。]

(東京新聞9月8日朝刊1面より)[... プーチン氏は、北朝鮮の核・ミサイル開発と、米韓合同軍事演習を同時に凍結することが解決の基盤になると述べた。]

(や)[わたしどもは、プーチン大統領のこの発言については、賛成いたします。

朝鮮半島や日本列島に在留米国人はるにしても、太平洋のあちらからツイッター発言す

るトランプ大統領に、朝鮮半島の上や周辺に住む民衆の、肌感覚があるでせうか。

そして長期的大局的視野からは、米国と中国といふ文明衝突への緩衝地帯を創造すべく、日本国・韓国・北朝鮮国・露国がどう協力しあふか、でせうか。

本日9月15日朝7時すぎ、われらが襟裳岬の上の、高い空を、再び、北朝鮮国ミサイルが“訪ね”ました。(今回はここまで)

17.10.16より

(や)[**☆★国民と官僚★☆☆トランプ大統領の北朝鮮国に対する挑発発言の奥には、アジア人に対する差別感情も、ありはしないか。もしもさうであれば、優秀な外交のできる首脳としては、認めがたくなつてもまゐります。**

さて、わが国。あるいは、「どちらからか要請されたのではないか」とも疑ひたくなるほど、唐突な、衆議院解散！

かくなる上は、今度こそ、〈官僚主導から国民主導へ〉を実現していく政界再編、これを望みます。生産社会の発達可能性に対し、そ

れを阻害してしまふ、時代遅れの社会認識と統治・行政観が、日本国官僚に(あるいは「左翼的組織官僚」にも)遺ると、考へられるからです。

わたしどもの学問は、古代ギリシャのソクラテス(前470～前399)、プラトン(前427～前347)、アリストテレス(前384～前322)と、近代ドイツのカント(1724～1804)、ヘーゲル(1770～1831)、マルクス(1818～1883)、エンゲルス(1820～1895)と、現代日本の三浦つとむ(1911～1989)に、学び続ける立場です。

社会発達の本質から、国民国家思想(米国に代表される)と、一方、儒教(中国に代表される)の、それらの将来を予想していく立場です。まさに、日本列島および朝鮮半島にて、両思想が衝突してゐるのであり、それが日本国にては、国民と官僚の綱引きとして、現象してゐませう。

しかし、人間社会の公会といふものは、今の諸国家や国家連合としてではなく、新たに民間から創造していくべきではないか。そのた

めにこそ、健康平和な現実認識の学問本質論を、開拓すべきではないか。

かういふ、脱政治の立場から、わたしどもは、政治の将来を予想し、国民として、政治発言もしてまゐります。

脱政治の立場から、わたしどもは、人間社会を、どう発達させていくか。

その内容としては、健康平和な現実認識の、〈学問・規範・祈り・芸術〉と、〈総合保健 (恋愛・出産・保育・教育・保健・看護・医療)〉を、最高品質最低費用にて、発達させてまゐります。

以上を逆に、人民の立場から言ふと、〈おたがひの健康平和生活の生産〉を追求しあふ。

さういふ<sup>ぐだう</sup>求道をしよう、といふことです。

〈おたがひの健康平和生活の生産〉としての、〈総合保健 (恋愛・出産・保育・教育・保健・看護・医療)〉と、〈芸術・祈り・規範・学問〉の、最高品質最低費用を、健康平和な現実認識にて、追求しあふ。さういふ求道をしよう、といふことです。]

17.11.15より

(や) [☆☆☆停滞☆☆☆先の総選挙にて、〈官僚主導から国民主導へ〉は、実現しませんでした。与党内の良識派の自立と、野党の再結集を、望みます。

最近のトランプ政権において娘夫婦の勢力が強いことを考えると、軍事産業などのため、朝鮮半島においてあらためて冷戦状態を演出

しようとしてゐる、といふことでせうか。

日本も東アジアも、あまり好ましくない、停滞状況にある、といふことでせうか。

わたしどもも、前向きの発言が、出てまゐりません。]